



歴史資料館だより

『聖隷グループキリスト教 信徒交流会延期のお知らせ』

流行のきざしが現れて以来あっという間に新型コロナウイルス感染が全世界で拡大し、日常生活も社会・経済活動も影響のないものはないという未知の体験を強いられることになりました。

このような状況下、9月に予定していた歴史資料館主催聖隷グループキリスト教信徒交流会は一年間延期とし、来年の可能な時期に本年担当の神戸聖隷福祉事業団を幹事法人としてあらためて開催することになりました。

聖隷グループのブラジル希望の家福祉協会とインド聖隷希望の家では、日本をはるかに上回る国の感染規模拡大の中で自法人の運営のみならず近隣住民の支援にも奮闘しています。今号では両法人から届いた様子を皆様にお伝えし、合わせて国内のグループ各法人の対応・対策の現況を御報告します。結核と闘った聖隷の始まりを思いつつ感染終息への道を共に祈りたいと思います。

ブラジル希望の家 福祉協会

理事長 下元明美 ジルセ

《愛に支えられた50年と
市川幸子の遺産》



2000年の初め、希望の家が創立30周年を迎えたとき、創立者の市川幸子は興奮して「こんなにできるなんて思ってもみなかった」と言っていました。そして今年50周年、「貴重な」との意味を込めて記念のロゴは金色にしました。

50年間希望の家を支えたのは本当の愛。金持ち・貧乏、若者・高齢者、中小企業・大企業、個人・団体などの区別なく、すべて隣人を愛する心によるものです。

長谷川保氏による募金活動は1976年から79年まで続き、その額は希望の家建設資金の70%に相当したこと、またそれが私たちに励まし、私たちが働き続けることを可能にしたことを記憶に残したいと思います。

市川幸子は銅像を作ることよりも考えや行動が世代を超えて継承され

発行者 聖隷歴史資料館

〒四三三-1855 八
浜松市北区三方原町三四五三
聖隷クリストファー大学五号館一階
TEL 〇五三(四三九)三四〇七
FAX 〇五三(四三六)五三五五

ることを望みました。子どもたちに献身的に尽くしたことはみんなの心の中に永遠に残っています。ドナローサと呼ばれていた市川幸子と一緒に働いた人たちの言葉を引用しましょう。この写真は、2001年、亡くなる一カ月前の緑のフェスタでの市川(中央)です。



「保護者達はドナローサを家族の恩人として見ていた」「どんな小さなことでも注意深く見ていて子どもたちをまるで自分の子どものように育て、スタッフたちに自信と落ち着きを与えた」「キリスト教の教えと自分の性格から入居者に対して常に敬意をもっていた」「会議に出席せず蚊に刺された入居者の一人を手当てしに行ったエピソードを思い出す。彼女の存在は神聖な治療だった」「目立たないよいういつもエプロンをしていて、見えない所で仕事をしていた」「ドナローサは二番目のお母さん、天国において私たちの世話をしてくれている」

◆聖隷歴史資料館

開館時間のご案内

平日(月～金)の10時～17時
(土・日・祝日と
聖隷学園の休日は休館)

《コロナ禍から立ち上がる》

希望の家は昨年50周年を祝う計画を立て、イベントやお祝いをディレクター、職員、ボランティア、また入居者とその家族が準備していました。ところが我々も新型コロナウイルスのパンデミックに見舞われました。記念式典は無期延期、イベントや行事は急遽中止になり、大事な募金活動イベント、例えばチャリティーお茶会、フェスタ・ジュニーナ(6月)、日本の祭り、緑のフェスタ、4つの夕食会など全てがキャンセルになりました。これらのイベントでの収入は私たちの年間収入の3分の1に相当します。景気悪化のため募金や寄付、入居者の保護者や親戚からの支援も激減しました。今ではイベントの代わりにインターネットで音楽ライブや文化アトラクションを開催し、参加者から寄付を募っています。

サンパウロの事務所の職員は在宅勤務をし、チームの会議や理事会はオンラインで行っています。施設では入居者や職員たちを守るために衛生に注意をして安全を守りながらやっています。ブラジルでは6月14日現在、感染者は85万1321人、うち42万7610人が回復し、4万2802人が死亡しています。

す。ブラジル国内には大きな経済的格差があり、インフラが整っていないためこの危機から立ち上がるのは困難を極めると思いますがより強くなつて立ち上がれることを信じています。

希望の家では5年前から学術的なチームが入り自立プログラムを開始しました。入居者がやりたい事や感情を大事にします。入居者が自由に選べるようになれば自立でき、指示されたとおりに動くロボット人間になるのをやめれば、幸せで楽しい人生を送れるようになります。こんな変化がありました。



自分で同室者を選ぶ・歯磨きをする・入浴する、食堂では自分で食べ物をとる。これらは、以前はすべて職員がしていたことでした。また施設外でも働けるようクリーニング、皿洗い、おむつ作りなどの専門活動もしています。今後良い結果をご報告できることを願っています。

(訳・聖隷三万原病院
伊藤アリシア・山城ベツイ)

インド聖隷希望の家

代表 ヴァルゲーゼ・アブラハム

《支援を必要とする人々に小さな支援ができる幸せ》



インド聖隷希望の家は1989年に始まりました。現在は福祉と知的障がい者、高齢者、社会から取り残された人々への種々のプログラムとサービスを提供するNGOとして活動しています。忘れることのできない聖隷グループの皆様からの援助により、この30年間、そのような人たちに光と希望をもたらすことができましたことを神様に感謝しています。

私たちは真の犠牲の精神と献身を持ってたゆまずサービスを続けてきました。行き詰まりを打開するためにはしばしばがきながら前に進まなければなりません。何度も食糧不足や資金難に陥りました。しかしそのような苦難にもかかわらず、必要な人々にサービスを提供する重要な役割を

果たすことができました。大きな困難にあるときは強く神様を信じ、聖書のことばを思い起こしました。「わたしは主、あなたの神。あなたの右の手を固く取って言う、恐れるな わたしはあなたを助ける、と。」(イザヤ書四一・一二)



インドでは新型コロナウイルス感染症拡大の状況が日々悪化し、感染者、死亡者ともに増加を続けています。政府と保健



福祉省は精一杯の努力をしていますが、私たちは現在の状況を非常に憂慮しながら、それでもより良い明日に希望をつないでいます。

人生において様々な局面に立たされたときは、聖隷の創始者である故長谷川保先生とその後継者の皆さんの、助けを必要とする人々に対する大きなヴィジョンと情熱を思い出します。偉大な事業は大きな犠牲のもとでのみ成し遂げられるというのには真実です。この困難の時にインド聖隷希望の家が行っている隣人への支援についてご報告します。

恐ろしい新型コロナウイルスの

世界的蔓延は私たちそれぞれに影響を与えています。コロナウイルスによる危機と制限のために、日雇労働者その他非正規労働者の多くは仕事ができなくなり、深刻な収入減から貧困に陥っています。収入がないため食べ物のほか石鹸、マスク、消毒剤など予防のための物品を手に入れることができません。インド聖隷希望の家はソーシャルサービス事業者としてこの危機に対応する次のような新規計画を立て実施しています。

- ・緊急救援物資(石鹸、消毒剤、マスク)の配布
- ・近隣コロナフリーの貧困者たちへ毎日一食の提供
- ・新型コロナウイルスから身を守るための教育を近隣コロナフリーへ提供
- ・食品セットの配布と啓発教育をするための移動特別許可を地方自治体から取得
- ・貧困住民に対する無料の歯科サービスの実施と近隣コロナフリーへ食品セット配布作業(ディール・ヴァルゲーゼ担当)

私たちは財政的危機や資金不足等多くの問題に直面していますが、ケアと助けを必要とする人々への小さな支援をなおも続けます。それができることは私たちの幸せです。30年間に私たちが前を向いて進むために共にあって支え、勇気を与えてくださった全ての良き隣人に感謝し、さらに私たちの働きを可能にし力を与えてくださった神様を心から賛美します。

(訳・聖隷歴史資料館)

国内聖隷グループ法人の対応と近況

神戸聖隷福祉事業団

新型コロナウイルス感染症防止対策の為、対策本部がリードする中で、但馬・神戸地区の各施設、事業所が一丸となって対応を実施しています。特に「三密」が発生する可能性のある場所、時間、イベントや行事について、中止や延期・参加の取止めを実施。施設内においてもマスクやフェイスガードを利用し、作業室、食堂、ソファ等でソーシャルディスタンスを意識した工夫をとりいれながら、完全な自粛状況から少しずつ元の状態へ戻りつつあるところです。第二・三の流行が来るかもしれない中で、まだまだ見えない部分もあります。が、すべき対応はきちんとし、世の中の生活や事業活動の再開に対応しています。



のりし日一郎
附洋の
在金顧問

そんな只中の5月16日に当法人顧問 金附洋一郎氏が急逝されました。

た。神戸聖隷の創設、特に神戸地区の立ち上げに尽力され、神戸聖生園施設長、第二代理事長、福祉関係団体や複数の社福法人の理事役員を務められ、最後まで現役を全うされました。今年一月に最愛の奥様が天に召され、悲しみの中、サービス付き高齢者住宅での新しい生活をはじめられたところでした。身体にハンディをお持ちでしたが、突然の訃報でした。今年の11月7日に改めて「偲ぶ会」を関係者で協力して催す予定です。神様の平安がありますように。



友が丘総合事業 (仮) 建物図

また、6月5日には但馬地区「多機能型福祉施設 めぐみ」、6月10日には神戸地区「友が丘総合

事業(仮)」の建設工事の起工式が行われました。どちらの工事も2021年2月～3月に完成し、新年度の事業開始を目指します。

最後になりましたが、今年の信徒交流会は、幹事法人は当方のまま一年延期となりました。開催日につきましては、新型コロナウイルス流行の終息状況を見ながら改めて検討いたします。来年度には安心・安全の中、良き交流の時を持つことができようお祈りします。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

(6/10 理事 加藤成久)

十字の園

聖隷グループの皆様と一緒に新型コロナウイルス禍の中で、不安に備えつつ今を歩んでいます。グループとして歩んでいる事は、非常事態において一層心強く、ありがたく感じています。

私ども十字の園では、現在のところ職員、ご利用者、ご家族の中で感染されたという報告は受けていません。感染者が出た場合の対策や備品の調達には、皆様方同様に苦慮しています。

毎年法人全体で集まって行っていた十字の園大会の中止や、法人内の集合研修のやり方を見直し、

検討しているところです。



ウェブミーティングアプリ利用の面会で笑顔

各施設では面会制限が少しずつ緩やかになっていきますが、ウェブミーティングアプリを利用した面会を始めました。ご家族やご利用者が笑顔で話される姿を、久しぶりに目の当たりにして大変うれしく思っています。この機会に遠くのお孫さんや娘さんご家族など別々の場所でご利用者を中心に集まることができ、これから色々な繋がりが持てるのではと新たな発見がありました。

これからも、苦労の中に希望を見出し、皆様と一緒に一日一日を大切に歩んで行きたいと思ひます。

(6/11 理事長 鈴木淳司)

聖隷福祉事業団

聖隷福祉事業団は2020年5月に創立90周年を迎え、これまで聖隷を支えていただいた皆様、日々最善を尽くしていただいた職員に感謝を申し上げるとともに、創立百周年に向けて新たな歩みをはじめ一年とする計画をしております。

2019年4月に新たに受託運営を開始した障がいをもった若者の就業訓練を行う静岡県立浜松学園や、聖隷三方原病院・聖隷佐倉市民病院・聖隷横浜病院の新棟建築という大型投資が完了し、各地域での新たな役割を推進し始めた2020年の年明け、新型コロナウイルスの問題が発生しました。想定を上回る緊急事態を受け、各病院・施設は対応に追われ、事業計画を修正せざるを得ない地域も発生しております。

事業団全体としても、3月に予定していた「新入職員辞令交付式」や5月に予定していた「90周年記念式典」は残念ながら中止としたほか、4月に竣工した浜名湖エデンの園1・2号館耐震対策建築替工事では、新型コロナウイルス感染防止のためリモート形式の竣工式が実施されました。

緊急事態宣言は解除されました

が終息したとは言えない状況が続いており、SDGs（持続可能な開発目標）に関連した取り組みとともにテレワークやリモート会議の定着など、仕事の様式を革新してまいります。



竣工後の浜名湖エデンの園正面玄関とリモート形式で行われた竣工式の模様

(6/12 総務部長 彦坂浩史)

小羊学園

職員の募集に苦戦するなか、2020年度も新規採用職員10名が与えられたことここから感謝したいと思います。

例年ならば、辞令交付式後に聖隷歴史資料館に向き聖隷グループの歩みを学ぶ時間を設けていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため中止とさせていただきます。また、翌日の全体での新人研修も中止し施設ごとに対応することになりました。その他、感染症対策として法人内の部門単位・階層単位の研修や会議等、複数施設の職員が集まる場面を中止・延期としました。

特に入所施設はより強い厳戒態勢を敷き、外部との接触を最低限に抑えクラスターにならないように努めています。また、秋に開催予定の法人ふれあい運動会・フェスタやお祭りなど地域交流行事も中止・規模縮小としました。

利用者さんにも楽しみにしている旅行や外出が中止となったりご家族との面会が自粛となったり、辛い状況をお願いしていますので、終息に向かったら楽しめる行事を提供したいと思っています。

一方でこのような苦しい状況の中、地域の企業や団体からたくさ

んのマスクをご寄贈いただいたことは、自分たちの仕事を守られていることを実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。



静岡県内は大規模な感染とはなっていませんが、首都圏に近いエリアでもあり危機感を持ちながら利用者の支援をしていきたいと思っています。

(6/17 理事 古橋誠)

聖隷学園

新型コロナウイルス感染拡大直前の2月10日、聖隷クリストファー大学の吉田時子初代学長が浜松ゆうゆうの里での手厚い介護の日々を終えて九八歳で召天されました。大学の開学は聖隷学園創立者長谷川保から吉田先生への熱い要請によるものでした。御霊の平安を祈ります。

大学では4月はじめに入学式を挙行した後、休校を経て開学以来初めての全学オンライン授業を4月20日から開始しました。徐々に対面授業の割合を増やし、6月15日からは全学的に通常授業を開始していますが、受講学生数の多い授業は教室数を増やし机の間隔をあけて着席するなどの工夫が続きます。

聖隷クリストファー小学校は本年4月に開校し、1年生、3年生、5年生の合計92名が入学しました。入学式以降、2週間の通常授業の後、在宅学習、分散登校を経て、5月18日より通常授業を再開しています。日本文化・伝統を理解した上で英語イマージョン教育と探究型の学びを実践し、隣人愛の精神をもって国際社会で活躍する人材を育成することを目的として開校初年度が始まっています。

介護福祉専門学校、中・高等学校、こども園も新型コロナウイルス禍の中、ICT等を活用しながら学生、生徒、園児のひとりひとりを大切にする教育・保育をおこない、それぞれ適切な時期から通常授業・通常保育を開始しています。



聖隷クリストファー
小学校校舎全景と
授業風景



毎年8月恒例の学園教職員夏期研修会は一年延期となりましたが、研修会開催時に募っているインド聖隷希望の家及びブラジル希望の家福祉協会への献金は例年どおり行います。世界でも特に感染拡大の大きいインドとブラジルで奮闘する両法人に思いを寄せ物心両面の支援を送り届けたいと思います。

(6/19 専務理事 小柳守弘)

遠州栄光教会

キリスト教会は、地の果てにまで福音を宣べ伝え、キリストを証言することを使命としています。教会の成立根拠は世俗法ではなく、神の言葉です。政府が「緊急事態宣言」を発令したとしても、教会はそれに必ずしも従う必要はありません。私たちは「宣言」が全都道府県に適用されてからも、感染防止対策を取りつつ、自らの使命に忠実に生き続ける道を探っていました。

しかし当教会も、自らの宗教行為によって感染を招く可能性を考慮し、この世におけるキリスト者の自由と奉仕という立場から、感染拡大を防ぐために多人数が集まる礼拝形式を自粛せざるを得ないと判断しました。そして5月中、主の日(日曜日)の礼拝を非公開形式で捧げました。幸い、教会関係者の中から感染者は出ず、周辺地域の感染状況も落ち着いてきましたので、6月より再び日礼拝を通常の形で捧げております。

確かに、私たちの地上における命は脅かされています。ですが、いかなるウイルスといえどもキリストが与えてくださる「永遠の命」を脅かすことはできません。無用な不安や恐れと戦い、真の命がここにあると

宣言し続けること。これこそが教会の「ウイルスとの戦い」だと信じ、歩み続けていきます。



教会学校も感染防止策をとりつつ再開されました

(6/23 主任牧師 山本克三)

牧ノ原やまばと学園

当法人の施設が散在する地域(牧之原市、島田市、吉田町)ではまだ新型コロナウイルス感染者は出ていませんが、2月末、県内に初の感染者が出て以来、こちらでも、三密になりそうな研修や会議を全て中止、施設への訪問も禁止等の決定をしました。2020年度全体職員研修も、創立50周年記念祝賀会も中止となり、準備することと言えば、入所施設に感染者が出た場合の手順とか、防護服の着脱の仕方といったことになりましたが、そんな中でも心とむ出出来事

はありました。

一つは、匿名希望の三〇代の女性が、大量の手造りマスクを届け下さつたこと。

その訪問回数は目下3回目で、マスク総数は



さんたくさん
たくに
きたな
いただき

361枚に上ります。やまばとの職員数460枚を目指して今後も届けて下さるとのこと。「人の役に立っていると思うと、沈んだ心が元気になった」と言われ、わたしたちは、マスク作りが終わっても明るい日々が続きますようお願いしています。



もう一つは、「魚がし鮎」のキッチンボランティアカーが、四つの施設を訪れ、板前さん数名で無償のご馳走をふるまっています。

いつもより大きめの「握り」をほおばるご利用者さんたちはとても幸せそうで、新型コロナのため行動が制限されている日々を、しばし忘れたかのようにした。

(7/2 理事長 長澤道子)

長谷川保聖書研究 マタイによる福音書 第六章二五〜三四節 《思い悩むな》

「あなたがたに言っておく。何を食べようか、何を飲むかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか」命が主体で食物はその手段にすぎない。からだは元であって、着物というのはその手段にしかすぎない。それを逆に考えればだめだ。何を着ようと不安定になって悩む。そんなことを考えるな。極めて単純なことですけれども、これが世の中の全てと言っていいですね。こういうことで右往左往し、思いわずらう。これがしっかりとできないですね。

「空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取り入れることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか」あなたがたは、空の鳥なんていうものじゃない。もつとはるかに重要なのだ。人間というのはそういうものだ。そんなことを忘れてはダメだ。

「あなたがたのうち、だれが思い

わずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾っては

いなかつた。きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずが、あるうか」「野の花」は、昔は「野の百合」と訳しておりました。これは赤いケシやアネモネのことを指すのです。朝咲いて、夕にはしおれてしまう。人々はこれを刈って、炉に投げ入れて焼いてしまうのです。

「神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあるうか。ああ、信仰の薄い者たちよ」神様を信頼することがない。神様に対する人格的な信頼というものが極めてわずかしかない。信仰の薄い者たちよ。

「だから、何を食べようか、何を飲むか、あるいは何を着ようかと言っと思わずらうな。これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである」着物、財産、

あるいは何を食うとか着るとか、何を飲もうかとか、そんなことで思いわずらうのは、信仰者でない者、イスラエルの子らでない者がしきりに求めているもの。

「あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。まず神の国と神の義とを求めなさい」だから「まず」、プロートン。第一にとか、最初にとかいう言葉です。「まず神の国」、これは神の王国を求める。神のみが御支配し給うその国。その世界と「神の義」、神の正しさ。神が何を望み、何を命じ、何を欲し給うか。神の王国ができることと、神のみが支配する王国ができるということ。それから、神の正しさ、神が何を望み給うか。その正義、神の正しさを求めなさい。

「そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう」そういうものですね。まず、神が何を望み給うかということだけを求めていく。それが実現するようにと願い求めて努力していく。それだけやっていると、必ず必要なものは与えられる。すべてこれに添えて与えられる。

(次号につづく)
(既刊「長谷川保聖書研究 マタイによる福音書」より抜粋。聖句の引用は口語訳聖書による。)